



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



ザビエル上陸記念祭を振り返る

聖人と私たちの関係を見つめ直す機会

ザビエル教会に250人を超える信徒が集った今年のザビエル上陸記念祭。生憎の雨のため実施内容に変更があったものの、これまでとは一味違う工夫が感じられるものとなった。教区方では鈴木康由実行委員長に今年の記念祭を振り返ってもらった。

今年のザビエル上陸記念祭を振り返って

8月11日(金・山の日)に行われた「ザビエル上陸記念祭」に多くの方がご参加してくださいました。当日は雨のため、残念ながら祇園之洲公園やザビエル公園での祈りができませんでした。その代わり、ザビエル教会のザビエル様の御像の前で祈りをささげ、ザビ

エル様の書簡を読み上げ、そして司教様を通じてザビエル様の鹿兒島での歩みを振り返りました。

ところで、なぜ私たちはザビエル様の鹿兒島上陸を記念するのでしょうか。往々にして「記念祭」と銘打たれた行事は、歴史的事実を振り返ることに重点が置かれてしまっている。こうした場合、過去の出来事が抽象化され、そこにある生々しい現実が忘れ去られてしまうことがあります。確かに、ザビエル様のなされたことは偉業であり、神様の導きであると言えます。しかし、ザビエル様を讃えるべきことは、数多くの困難、恐怖、そして挫けそうな心を神様やイエス様にささげ、御旨を求め続けたことにあるのではないのでしょうか。



ザビエル上陸記念祭で小教区の決意を奉納

「結果」に目を奪われがち

「結果」に目を奪われがち

恩人司祭の冥福祈る 今年のブイジュ祭

7月9日(日)ブイジュ神父没後95年の命日祭が瀬留小教区(ソンジンウク神父)であった。

この催しは「ブイジュ祭」として郡山司教司式で、墓参りと教会前のモニュメント「奄美大島歴代宣教師故人名碑」で祈りとミサがささげられる。今年には特にモニュメント前では、昨年、一昨年と帰天した美島神父、大野神父のために口ザリオの祈りをささげた。

ミサでの説教で郡山司教はマルセイユから派遣される宣教師たちの話の中で、「船を焼く」エピソードは、2度と本国の土を踏まないという決意の表れだと宣教に対する思いの強さを話した。

9月3日は 被造物を大切に作る世界記念日

回勅「ラウダート・シーとともに暮らす家を大切に」(2015年)で、全世界の人に向けて、エコロジー(自然保護)に取り組むよう訴えた教皇フランシスコは、東方正教会にならって、環境保護のための助けを願う日をカトリック教会の暦に加えました。

地球規模の環境悪化が進む中、自然を破壊することなく、「わたしたち皆の家」である地球を大切に、調和のうちに発展していくことができるよう、この日、全世界のカトリック教会で祈りがささげられます。いのちの与え主である神に賛美と感謝をささげるとともに、自然を大切に作る視点から、ライフスタイルを見直し、考え方を改める機会としていきたいものです。

また司教はブイジュ神父について、神父の病気を心配した母親からの帰国の勧めに対しても、召命を忠実に果たすために帰国することなく、この瀬留のちに残り生涯を終えたことに触

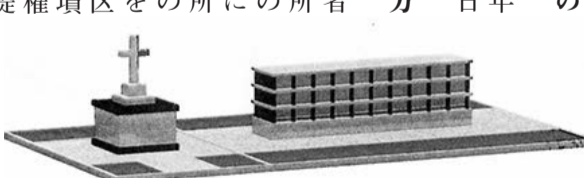
一次募集開始 9月11日から 唐湊墓地納骨堂

I・施設概要
一 区画の大きさ 幅40cm、奥行30cm、高さ30cm
二 収蔵期間 最後の納骨から30年間。その後は、合祀墓に移す。
三 使用権利金 30万円、管理費 10万円、篆刻料(名前)の記入 2万円
※今回募集区画 総区画1

(2) 合祀墓(一つの墓に血縁のない複数の遺骨等を収蔵する墓)
・納骨管理費 10万円、篆刻料 2万円。骨壺の規格 直径12cm
II・申し込み資格
カトリック鹿兒島司教区に所属する信者、若しくは墓地管理者が特別に認められた者で、現在唐湊墓地の使用権を所有していない者。
すでに墓地を所有している者が、納骨堂または合祀墓に移る場合は、年明けに行われる二次募集で申し込みで受け付ける。

れ、「今でも集落の人々の中にブイジュ神父をはじめ歴代の宣教師たちが生き続けていることに感謝して、信仰の道を歩もう」とメッセージを送った。(報告・田下哲郎)

III・申込の開始
2017年9月11日(月)
IV・申込方法
希望者は、まず所属小教区の主任司教に申し出、所属小教区の墓地委員を通して教区事務所へ墳墓等使用権申請書を提出し、墓地管理者の承認を得なければならぬ。
V・利用開始
2017年11月1日(水)
VI・問い合わせ先
教区本部事務局 TEL 09(226) 5100



訃報

▼中堀ちづ修道女
6月2日(金) 鹿兒島出身の中堀ちづ修道女(純心聖母会)が入院先の病院で帰天した。88歳だった。1928年生まれで、鹿兒島純心女子学園に数学教諭として勤務。その後、入会し1956年に初誓願。1966年に終生誓願を宣立していた。

▼齊野佳代子修道女
7月14日(金) 鹿兒島出身の齊野佳代子修道女(純心聖母会)が入院先の病院で帰天した。76歳だった。鹿兒島純心女子学園在学中に受洗し、卒業後は学園に勤務。1967年に入会し、2年後に初誓願、1979年に終生誓願を宣立。その後は主に鹿兒島教区で働き、2015年にすい臓がんが判明し治療に専念していた。

▼祭壇奉仕者選任式
日時: 9月17日(日) 9時
場所: カテドラル・ザビエル教会
選任予定者: 池上利男氏(母間小教区)
▼終身助祭候補者認定式
日時: 10月1日(日) 9時
認定予定者: パウロ小島芳武氏(川内小教区)
場所: 川内教会

司祭叙階式

9月23日(土・秋分の日)

場所 鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂
受階者 ヨハネ・マリア・ピアンネ 李 秉徳
・ミ サ 10時・祝賀会 12時30分

聖霊による生活刷新セミナー

多くの感動をもらった受講の感想

5月10日から毎週水曜日、ザビエル教会でフランシス・マッケイ神父(聖コロンバン会)による「聖霊セミナー」が開かれ、多くの信者が受講した。教区報では受講者達の感動を紹介したい。

ザビエル教会

下大蘭明美

「求めなさい。そうすれば与えられます。叩きなさい。そうすれば開かれます。探しなさい。そうすれば見つかります」(マタイ・7)

「幼子のようにありなさい」(マタイ11・25)
「主に委ねよ」(詩篇55・22)

このセミナーを通してたくさんのお話を頂戴しました。特にこれらのお話は私の心に留まり、自身の信仰の原点に立ち返るものとなりました。

これまで自分の中の漠然としていた「聖霊」。聖書の中で目にし、祈りの中で口にしても聖霊とは…。聖霊に満たされた霊的生活とは…。

初めての聖霊セミナーに「自己の変容」を望み、キリシタンとして神に求め、探し、自分自身を開いて頂く50日間の黙想会でした。

マッケイ神父様は喜びに満ち溢れた笑顔のある方で、毎回の講義は心地よく平安を頂く時間となりました。また講義の後のグループの方々の分かち合いも恵みの時でした。

「ありがとうございます、あなたの深く大きな愛を、魂の奥底から、あなたを称える」
毎回、セミナーの締め括りに皆で歌った「父なる神への感謝の歌」。セミナー終了から一週間経った今も

紫原教会 徳田昭子

「ありがとうございます、あなたの深く大きな愛を、魂の奥底から、あなたを称える」
毎回、セミナーの締め括りに皆で歌った「父なる神への感謝の歌」。セミナー終了から一週間経った今も

「ありがとうございます、あなたの深く大きな愛を、魂の奥底から、あなたを称える」
毎回、セミナーの締め括りに皆で歌った「父なる神への感謝の歌」。セミナー終了から一週間経った今も

これまで私は神との出会い、かわりを分かち合う機会を十分に持つことはありませんでした。8週間の分かち合いを通して、神の臨在と恵みに包まれてきたことを確信できたことは大きな喜びです。

セミナーの間、約束されていた冊子、聖書を聞き黙想することが定着し、その後1日の終わりの静かな時を与えられています。

しかし、聖霊の満たしを受けた後、喜びだけではありませんでした。幾つかの誘惑があり、気持ちが落ち込みそうになりました。私

心の中に流れ続けている。喜びと感謝、これが今回のセミナーを通して体に染み込んだ賜物です。

セミナー準備の段階で、歌の伴奏をするよう勧められた時「はい」と言えない私がいまいました。聖霊刷新という言葉にまとわりつく変なイメージが

「体調が悪くセミナーに参加できないので、本を買って送って欲しい」友人からの電話で不参加の予定を参加に変えませんでした。

洗礼を受けて間もない頃参加した「聖霊刷新の集い」で違和感を感じ中座した体験から躊躇していたのですが、最近お

「体調が悪くセミナーに参加できないので、本を買って送って欲しい」友人からの電話で不参加の予定を参加に変えませんでした。

洗礼を受けて間もない頃参加した「聖霊刷新の集い」で違和感を感じ中座した体験から躊躇していたのですが、最近お

「体調が悪くセミナーに参加できないので、本を買って送って欲しい」友人からの電話で不参加の予定を参加に変えませんでした。

洗礼を受けて間もない頃参加した「聖霊刷新の集い」で違和感を感じ中座した体験から躊躇していたのですが、最近お

「体調が悪くセミナーに参加できないので、本を買って送って欲しい」友人からの電話で不参加の予定を参加に変えませんでした。

洗礼を受けて間もない頃参加した「聖霊刷新の集い」で違和感を感じ中座した体験から躊躇していたのですが、最近お

「体調が悪くセミナーに参加できないので、本を買って送って欲しい」友人からの電話で不参加の予定を参加に変えませんでした。



谷山教会 田代峻子

「体調が悪くセミナーに参加できないので、本を買って送って欲しい」友人からの電話で不参加の予定を参加に変えませんでした。

洗礼を受けて間もない頃参加した「聖霊刷新の集い」で違和感を感じ中座した体験から躊躇していたのですが、最近お

「体調が悪くセミナーに参加できないので、本を買って送って欲しい」友人からの電話で不参加の予定を参加に変えませんでした。

洗礼を受けて間もない頃参加した「聖霊刷新の集い」で違和感を感じ中座した体験から躊躇していたのですが、最近お

「体調が悪くセミナーに参加できないので、本を買って送って欲しい」友人からの電話で不参加の予定を参加に変えませんでした。

あり、恐れたからです。あのシスターにお話ししたところ「はい」しかありません。そのとき、マリア様はどんな思いで「はい」とおたえになられたのでしょうか。と改めて思いました。こんな小さな体験を通して「なれかし」の重さ、大切さを実感させられました。

8週間のセミナーを受けて、冒頭に書いたような私がいまいます。何を恐れていたのでしょうか。偏見と誤解から解放されたのも、今回のセミナーの収穫でした。

第4週のと看、後ろの方が激しく咳きこまれ苦しうでした。私もよく咳き込むので、早く止まりますようにと思いましたが、その時神父

「今日、癒しを受ける方が何人かいます。またこの列の5番目の方もよくなると。あつ、やつぱり。後ろの方だ、よかつたなあ」と思いながら神父様の方を見たら私たちが列を指差しておられました。思わず、「1、2、3、4、5」と数え、「あれ、私だ。まさか」まだ半信半疑でしたが、喉のあたりにすつと爽やかな空気を感し、息苦さが取れたのを覚えていました。後ろの方ではなく、自分のことであつたことに驚き鳥肌が立ちました。今も、以前より呼吸が楽になり神に感謝です。

このセミナーで、自分をすべてあけ渡し、すべてを神様に委ねて全幅の信頼をもち続けることが一番大切であることを学びました。神様の呼びかけにこたえられるようにいつも心を澄ませたいと思ひます。この貴重な時間を与えて下さった神様、マッケイ神父様、末吉神父様、多くのスタッフの方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。

+KABAYAN SEKSYON+ Ang Dukha sa Bibliya: Mga Propeta

Ang mga propeta sa Bibliya ay laging nag-aakusa sa mga nakakarawasa sa buhay ng pagbali sa plano ng Diyos. Kadalang San, binabatikos nila ang mga pinuno at mga hukom dahil sa kanilang kasalanan laban sa mga dukha. Sinabi ni Jeremias: "Kawawa ang nagtatayo ng bahay sa nakaw na mga gamit... ang nagsasamantala sa kanyang kapwa at ayaw magpasuweldo sa trabaho nito!" (22:13).

Mabigat ang pambabatikos sa mga panginoong maylupa at mga nagpapatang na nang-lilit ng kapirasong lupain sa mga karaniwang magsasaka. Sa Israel, ang mga lupain ay kinamkam ng iilan lamang; maraming mga magsasaka ang nawalan ng lupa. Sinabi ni Mikeas: "Kawawa ang mga nagbabalak ng katampalasan, pag pinagnanasahan nila ang mga bukid, kinakamtan ang mga iyon. Gusto ba nila ng bahay? Kinukuha nila iyon". (2:1-2).

Para sa mga propeta ang paghihirap ay hindi resulta ng pagkakataon, tadhana, o katamaran. Ang paghihirap ay dulot lamang ng mga mayayaman na bumali sa tipan ng Diyos dahil sa kanilang pagiging ganid at labis na pagmamahal sa sarili. Winasak nila ang pagkakaisa ng Israel at lumikha ng paghihirap. Madaling tinuligsa ng mga propeta ang ganitong mga pagkilos at nanawagan ng hatol ng Diyos laban sa mga nang-aapi sa mga dukha. Maririnig kaya ng lipunan ngayon ang protesta ng mga propeta laban sa kahirapan at sa mga taong nagbubunsod nito?

Maraming mga mayayaman ang nagpapasa sa yaman at hindi nila nakikita ang mga nasa kapaligiran nilang mga dukha. Kung kaya dito natin makikita na kung sino pa ang mayaman ay lulu pang yumayaman at kung sino ang mahirap siya namang lalung naghihirap. Mayroon ngang hindi maganda ang kalagayan ng tao sa mga panahon na ito.

Kung lahat ay may pusong kristiyano, tulad ng Panginoong Hesukristo na nagpakababa at naging dukha para tayo maging mayaman hindi lang sa materyal kundi pati sa espiritual.

Katesismo sa Taon ng mga Dukha (Fr. Dino Orolfo)

み言葉にかなう家族のあり方を学習

第5回夏休み子ども大会(聖書学校)

第5回「夏休み子ども大会」(聖書学校)が8月2日から4日まで、唐湊の司教館であった。今年のテーマは「みんな神さまの子ども」。参加した子どもたちは、市内教会訪問や寸劇など、2泊3日のメニューを通して「神さまの子ども」としての在り方や心がけを楽しく学んだ。



ザビエル上陸記念碑前で記念撮影

日頃異なる教会に属する子どもたちが、同じ信仰を通して交流するとともに、み言葉に触れて各々の信仰を深めるのがねらい。今年のみ言葉は「わたしは戸口に立ってたく。わたしの声を聞き、戸を開くなら、わたしは中に入ってその人と食事をともにする」(黙3・20)。これをテーマである「みんな神さまの子ども」という観点から、さまざまメニューの中で子どもたちは考えた。

初日は、唐湊司教館に集合。テーマとみ言葉が発表され、市内教会訪問へ。紫原教会、谷山教会、祇園之洲公園(ザビエル上陸記念碑)を訪れた。

劇を披露。会話のない家族の生活を演じた。この問題点を、子どもたちは男女に分かれて意見交換。その後、どうしたらみ言葉に合う家族になるかをグループ別に寸劇で発表した。男女ともに、笑顔に満ち愛のあふれる家族を演じた。

午後は、プール(かごしま健康の森公園)へ。プールでは、ウォータースライダーや鬼ごっこなどをして遊んだ。

三日目は、朝食後に唐湊カトリック墓地まで散歩。帰館後、感想文を書き、感謝のミサをささげた。司式した泉浩二神父は、「寸劇

では愛」という言葉まで出た。「みんな神さまの子ども」なのだから、「愛」を忘れず、友だちや家族と生活してほしい」と説教した。

今年参加した子どもたちは、三教会(ザビエル・玉里・鴨池)から10人。ザビ

浦上でファチマの聖母 ご出現百年記念祭

日時：9月10日(日) 18時
場所：浦上教会(大熊小教区)

内容：聖母行列(ロザリオ)、聖体賛美式、懇親会(19時半頃)
今年の5月から10月まで全国を巡回しているファチマの聖母像(複製)を迎え、聖母に祈りをささげ

エル教会の今村騎夢来くん(小3)は、「みんな神さまの子どもと知って嬉しかった」。鴨池教会の泉穂乃花さん(小2)は、「劇ではみんなで仲良くしよう」と伝えることができた」と話した。

「短信」

▼ザビエル教会堅信式
6月25日(日)、ザビエル教会(竹山昭神父主任司祭)で、3人が郡山司教から堅信の秘蹟を受けた。

▼大熊教会堅信式
7月23日(日)大熊教会(タム神父主任司祭)では、堅信式があった。この日の堅信は、郡山司教代理の末吉卓也神父で行われ、7人がその恵みに浴した。

司教執務室便り



神の記憶

「なぜ人々は、閉鎖的になり、自分の安全を優先するのでしょうか。それは『神の記憶』を失った時に起きます。『教皇フランシスコの言葉365、348頁』。神にどんな状況のことを言っておられるのか自分なりに考えてみました。

私たちは、確かに、自分の考えやその時の気分にとだわると不快な感じを抱くことになりがちです。例えば、「一人じ」として静かな雰囲気を感じていたり、「ひとりで静かに誰かに邪魔されたのではない」という時に誰かに邪魔されたのではないらひどく不快な気持ちになるのではないのでしょうか。これは、自然に起こる心の反応なので悪いとは言えません。しかし、すぐに腹を立てて拒絶すれば、「練習」が足りないという教皇に言われそうです(同上388頁)。「信仰には練習が必要だ」とかねがね口にしているの思わす一人合点しました。

に気分や感情に左右されながら過ぎていきます。静かなひと時を楽しんでいるときそれを守ろうとするのが自然なことだとしても、それが台無しになったことについてまでも不機嫌なままになっていることがあるとすれば、「神の記憶を失った」ということになりそうです。

「思う存分喧嘩してください。お皿が飛ぶならそれでもいいです。でも、仲直りしないでその日が終わるようなことが決してないように」(同上344頁)。なぜなら、翌日まで持ち越すなら「神の記憶を失うことになるから」ということでしょう。教皇は続けます。「神の記憶がないところすべては平坦になります。すべては自分が基準」(同上348頁)。さらに、「信仰は『わたしたちとともにある神の歴史』の記憶を持っています」(同上349頁)。

家族をはじめ、沢山の人々から愛され、赦され、認められ、励まされた数々の思い出を神の恵みとする信仰の姿こそ神の記憶を生きた信仰。だから、身近な人々や神さまにいつも感謝。お友達の家、立正佼成会的にそんな神の記憶を宿す一人ひとりに「合唱礼拝！」

「ニケア・コンスタンチノープル信条」 「使徒信条」の旋律(二般用)

編集：日本カトリック典礼委員会
B6版横長中綴 20ページ
定価：83円(本体77円+税8%)
発行：2017年8月30日

【ご案内】本年4月16日(復活の主日)から使用されているニケア・コンスタンチノープル信条と使徒信条の旋律の楽譜です。現行の「典礼聖歌」と同じ判型の冊子となっています。問い合わせ、及び注文は「カトリック中央協議会・出版部」まで。TEL 03(5632)4429

会と催し(9月)

- 1日(金) 川淵勇神父命日(1997年)
- 3日(日) 年間第22主日
- ▼被造物を大切に作る世界記念日
- 7日(木) 聖体礼拝・カテドラル・6時30分
- 8日(金) 聖マリアの誕生
- ▼鹿児島市主任司祭会議・教区本部・15時
- ▼七田和二郎神父命日(1989年)
- 10日(日) 年間第23主日
- 14日(木) 十字架祝賀
- 15日(金) 鹿児島教区司教座教会献堂記念日
- 16日(土) 正義と平和協議会・教区本部・13時
- ▼パストラルケア・教区本部・14時
- 17日(日) 年間第24主日
- ▼奄美の宣教司牧を考える会
- 18日(月) 祭壇奉仕者選任式・カテドラル・9時
- ▼司祭評議会・教区本部・14時
- ▼教区司祭会・教区本部・16時
- ▼脱核部会交流会・教区本部・15時
- 19日(火) コンベンツス・教区本部・10時
- ▼管区青少年担当司祭会議・教区本部・17時
- ▼教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 21日(木) 聖マタイ使徒福音記者
- 23日(土) 李秉徳助祭司祭叙階式・カテドラル・10時
- ▼ダニエリ神父命日(2003年)
- ▼バルビニ神父命日(2004年)
- 24日(日) 年間第25主日
- ▼伊集院巡礼
- ▼世界難民移住移動者の日(献金)
- 「世界難民移住移動者の日」は、1970年に福者パウロ6世教皇が教皇庁移住・観光者司牧委員会(現在の移住・移動者司牧評議会)を設立したことを受け、「各小教区とカトリック施設が国籍を超えた神の国を求めて、真の信仰共同体を築き、全世界の人々とともに生きる」決意を新たに「する日」として設立されました。「世界難民移住移動者の日」には、おもに滞日・在日外国人、海外からの移住労働者、定住・条約難民、外国人船員や国際交通機関の乗組員とその家族のために「祈り・司牧的協力・献金」がささげられ、それらは日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられています。
- ▼オリープの会・教区本部・14時
- 27日(水) 聖霊セミナー・教区本部・15時30分
- ▼松永正男神父霊名(聖ビンセンチオ)
- 29日(金) 聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル大天使
- ▼ティエン神父霊名(聖ガブリエル)

祈りの意向

【祈祷の使徒会】
福音宣教 小教区の教会
日本の教会 すべての被造物の尊重

神学生の「僕の長崎への道」 日本二十六聖人の道を歩いて

(12)

3月10日(木) 広島―廿日市:約16km

午前7時、小聖堂でミサに与る。ヴィタリ神父と朝食。言葉を変わしていると、ユーモラスでも優しい人柄がうかがえる。昼食まで用意してくれた。感謝。きのはほぼ一日雨にぬれたため、カバーをしてい



ヴィタリ神父様と(幟町教会)

たにもかかわらず、ザックの中まで水が滲みていた。特に寝袋の湿っぽいのはいただけない。ある程度乾かしてから荷造りしたため、出発は10時。

―と思いきや、きょうも出端をくじかれた。手帳を、きのう鹿児島教区本部へ電話した、海田の市民文化センターに忘れた。電話すると、幸い届けられてい

る。広島教区本部職員の上さんが、車で連れていって

くれた。面目ない。結局、午前11時半ごろ、出発。

勿体ない、と思う。が、警告も分らない。前半の遅れを、少しでも取り返そうと逸

る思いへの、それとない戒めか。六甲でオマリ神父

も言っていたではないか。「新記録のために歩くので

短文

俳句

鹿兒島純心 川上 和
ひめゆりや原爆の想い消し
難し

純心学園 山頭信子
台風一過ユニフォーム姿庭
を掃く

アキアカネテニスコートや
夏休み

毬栗のころろ転げてすぐ止
まる

鹿兒島純心 川上 和

朝夕のラウダート・シ今生
きる小鳥のさえずり大地の
めぐみ

浦上の四番崩れ百五十年耐
え抜く信仰日頃の業に

鴨池教会 前田儀子

得るもの失へるもの掬ひめ
ぐる復活祭の夜の遠雷

ピエタ像磨く窓辺に咲きそ
ろふミルルク色の薔薇を春疾
風打つ

KJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 9月号

「正当にこわがる」
チェルノブ
イリ原発事故
から31年経つ
た。ウクライ
ナでは、年間
0.5ミリシーベ
ルト以上の汚
染地区を対象
に今も健康診
断が実施され
ている。甲状
腺ガン患者が
発生している
からだ。今も
多くの子ども
たちが、放射
能被害の恐怖
に苦しんでい
る。一方福島

原発事故から6年経った日本においては、被ばく対策があまり行われていないように思われる。甲状腺ガン患者が発生していないことを理由に健康被害がないとされているようだ。年間20ミリシーベルト以下であれば、学校を再開し、住民を帰還させようとしている。原発事故への対応の違いは明白である。日本では「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ということか。

原発の問題、放射線の危険性を考える時、「正当にこわがる」ことの難しさを感ずる。浅間山の噴火を体験した寺田寅彦は次のように述べている。「ものをこわがらな過ぎたり、こわが

りすぎたりするのはやさしいが、正当にこわがることはなかなかむづかしいことだと思われた」。「小爆発二件」。科学者であり、文学者でもあった寺田寅彦は「こわがる」(感性)ことを前提にして「正当にこわがる」(知性)ことの必要性を主張しているのだと思う。原発を考える際も同様の姿勢が必要ではないだろうか。今の政府を始め「原発推進論者」はあまりにも原発を「こわがらな過ぎ」るように見える。

それでは、「正当にこわがる」ためには、どうしたらよいのだろうか。先ず視点を明確にすることが必要である。イエスの説いた神

は抜くことが大事でしょう。長崎まで歩き抜くことが大事でしょう。平和公園を横切る。70年前、この上空約600メートルで原子爆弾が、世界で初めて実戦に使用され、炸裂。地上は地獄絵図と化した。爆風は音速を超え、地上のあまねくを薙いだ。爆心地の地表が受けた熱線は太陽の照射エネルギーの数

千倍、温度は3千から6千度に。死者は約14万人に達した。爆発による高熱で発生した上昇気流はキノコ雲を誘発、熱気は上空で冷却され「黒い雨」に。放射性降下物を含むそれは、土壌を、河川を、人体を汚染。放射能等による後障害はいまなお、被爆三世にまで及ぶ。明日は3月11日。東日本大震災から5年だ。僕は、

今年度も7月24日から25日にかけて、第48回鹿児島教区カトリック幼稚園教職員研修大会が霧島国際ホテルで開催されました。今回の講師は岡本仁美先生。テーマは「モンテッソーリ教育における障害児支援の実践―インクルーシブ教育の育ち合いを目指して―」についてでした。

今年度、初めて鹿児島教区カトリック幼稚園教職員研修大会に参加させていただき、講話をお聞かせ頂く中で、私たちが最も衝撃を受けた言葉は「困った子供ではなく、困っている子供」というものでした。私たちは今まで、つい手が出てしまいう子供たちや、お友達と一緒に遊ぶことに参加することが苦手な子供たちを「困った子供」と認識していました。

しかし、その様な子供たちを「困った子供」ではなく「困っている子供」と認識し、保育者像を胸に、

幼児教育の真髄に触れて

幼稚園教職員研修会に参加して

幼保連携型認定こども園「谷山善き牧者幼稚園」

保育教諭 丹羽 葉 月

落ち込み、焦り、自信をなくしてしまう時があります。その後押しして頂けないかと、今回の研修大会の日程に組み込まれていたアンケートから質問の時間に質問をさせて頂きました。

日々努力を重ねていくことが大切であり、時にその対応が完璧でなくても大丈夫。そういう時こそ、職場の仲間同士で助け合うべき」という力強い言葉を頂くことができました。

日頃から私たちの園でも理事長先生や園長先生、副園長先生が「チームワーク、チームプレーを大切に」しなさい」とおっしゃいます。さらに先輩の先生方からも「分からないことは分らないままにせず、遠慮なく聞いてね」と私たちが連携を取りやすいよう、いつも温かい言葉をかけてくださいます。

今後ともこのような温かい環境の中で仕事をさせて頂けることに感謝しつつ、今回の講話で得られた学びを、以後の保育でしっかりと実践していけるよう努力や経験を重ね、日々成長していけるよう精進して参りたいと思います。

提にして、科学者の専門的知識を活かすことができれば「正当にこわがる」ことになるだろう。被災者や住民の側に立つて原子力発電の危険性を警告してきた科学者は多い。なかでも「市民科学者」高木仁三郎の功績は大きい。彼の遺志を継いで「原子力資料情報室通信」は毎月「正当にこわがる」ための貴重な情報を提供している。(山下和実)

定例会の案内

(毎月第二土曜日)

日時: 9月16日(土) 13時

15時 場所: 教区本部 内

容: ①主の祈り ②情報交換

③奄美でカトリック排撃運動はなぜ起こったのか。